

※ 著作権取得済み 無断転載・複写不可

2110-G0054

「わーくはぴねす」枚方にオープン

水耕栽培設備の設置準備を行う吉田達哉さん（手前）ら。枚方市



農業で就労 雇用促進後押し

知的障害者ら 収入に喜び

知的障害者らの一般就労促進を目的とした企業向け貸し農園「わーくはぴねす農園おおさか枚方」が今月、枚方市内にオープンした。すでに2企業が同障害者ら計15人の雇用を決めて事業をスタートさせ、ビニールハウス内で野菜の水耕栽培に向けた設備づくりに励んでいる。

障害者就労支援のエスプールプラス（東京都）が運営する施設で、府内では摂津市に続いて2カ所目、全国では29カ所目。契約企業は農園を区画で借り、知的、精神障害者らを雇用し、賃金と同社へのサービス料を払う。枚方市では、約1万3500平方メートルの敷地にビニールハウス7棟30区画を設ける。最大90人の雇用が可能。発泡スチロール製のレインに細かい軽石を敷き、40種類の野菜を水耕栽培する。通動用に同園とJR河内磐船駅を結ぶバスも朝夕に運行している。

設置されたビニールハウス



電設卸の因幡電機産業（大阪市西区）社員として同園で働く枚方市の吉田達哉さん（38）は「（同じ障害者を持つ）みんなと一緒に仕事できるのがうれしい。早くトマトを作ってみたい。給料が出たら仲間に食事をこしらえよう」と話した。

今年3月の法改正で障害者の法定雇用率が2.2%から2.3%に引き上げられ、企業には新たな障害者雇用が必要。一方、同園の仕事は福祉作業ではなく、一般就労となるため、府の最低賃金による週5日勤務で月額13万円程度の収入が見込めるといふ。

障害者3人を雇ったシステム開発のアイスター（大阪市中央区）の角谷暁雄社長は「IT企業で知的障害者を雇うのは難しく、農園で雇用することに決めた。できた野菜は社員や得意先に配ったり、子供食堂に寄付したりして地域に貢献したい」と話した。エスプールプラスによると、創業から12年間で約2200人の雇用を全国の農園で生み出し、1年以上の仕事が続く人は92%と定着率も高い。問い合わせは同社（0120・982・655）。